

祭 夏の風物詩 祭

夏まつりを開催



鴻巣夏まつり

関東随一ともいわれる12基の勇壮なみこしが、約3kmにわたり歩行者天国となる中山道を練り歩きます。100年以上の歴史を誇る伝統行事として、大勢の見物客で賑わいます。

とき／7月10日(日)14時30分～21時(歩行者天国)、みこし渡御は15時～

※夏まつり期間は、7月9日(土)～11日(月)

ところ／中山道(加美～人形)

駐車場／パーキング・こうのす、鴻巣公園(勝願寺境内を除く)、市役所第二庁舎駐車場、鴻巣駅東口第1・2駐車場(有料)

問い合わせ／鴻巣市夏まつり実行委員会事務局(産業振興課内・☎501-6809)



吹上夏まつり

伝統ある吹上神社の祇園祭で、上組・下組に分かれてのみこし渡御を中心に盛り上がります。山車の巡行や出店、市商工会吹上支所で行われるビアガーデンも大人気です。

とき／7月17日(日)14時30分～21時(歩行者天国)、みこし渡御は15時～

※夏まつり期間は7月16・17日(土・日)

ところ／吹上神社前と中山道の一部

問い合わせ／吹上夏まつり実行委員会事務局(市商工会吹上支所内・☎548-0049)



オリンピック・パラリンピックのエンブレムで大注目

市松模様と生出塚遺跡出土の人物埴輪

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムが「組市松紋」に決定し、市松模様に注目が集まっています。市松模様とは、二色の正方形又は長方形を交互に配した格子模様的一种で、元禄時代の歌舞伎役者、初代佐野川市松の着ていた衣装が名前の由来になっています。それ以前は「石畳」や「霰」と呼ばれていたと言われています。

この模様自体は、四角形の単純な組み合わせであることから、古代から国内外を問わず存在していたようです。古墳時代に登場する人物埴輪にも市松模様を表現したものがありますが、その代表的なものとして、本市所有の生出塚遺跡出土の人物埴輪(6世紀)があります。この埴輪は、袴の部分に格子状に線刻し、赤彩で色分けしています。

一般的に人物埴輪は、葬送儀礼の一場面を表していると言われており、その儀礼の際の服装表現の一種であったと考えられますが、実際の服装表現なのか誇張されたものであったのかは明らかではありません。この市松模様の人物埴輪を含め、国の重要文化財に指定されている生出塚遺跡出土の埴輪は、クレーこうのす1階歴史民俗資料コーナーに展示していますので、ぜひご覧ください。

問い合わせ／生涯学習課文化財担当(内線553)

